

福祉の現場で働く人たちに、「うちの事業所はココが熱い！」魅力ややりがいをインタビュー！

専門性を高め、スキルを磨ける喜び

アイビーキッズ布田 大谷 愛季さん

「できた！」「楽しい」をたくさん増やせる場所に
 前職の保育園で発達障害がある子どもを受け持った経験から、児童発達支援事業所を志したという保育士の大谷さん。「発達障害のお子さんには園や学校で自己肯定感を育みにくいという現状を知り、自分が関わるお子さんに前向きな未来を持ってもらえよう」と専門性を上げたいと思いましたが、保育と療育の考え方の違い、専門知識を踏まえつつ一人ひとりにとことん寄り添う姿勢に、日々学ぶことばかり。ここは作業療法士などさまざまな専門分野のスタッフがいるので、一人の子どもを多様な角度からチームで支援できるのも強み。一見問題と思われがちな行動も否定するのではなく、その背景を探り、感覚統合的観点から必要としている刺激を満たしてあげること、落ち着いて課題に取り組める姿勢を作っていきます。保護者の方との関わりについても不安に寄り添い、お子さんのいいところ、頑張ったところをしっかりと伝えるよう心がけています」



様々な専門性を持つスタッフで意見交換。チームワークのよさも強み。



アイビーキッズ布田
 就学前児童を対象とした児童発達支援事業所。作業療法士による感覚統合理論にもとづく運動遊びや自立課題などの個別療育を行っています。
 調布市国領町1-9-3 小谷田ビル1階
 042-444-7182



無添加で安全な食にこだわり地域のコミュニティスペースに

仙川「安藤忠雄ストリート」に2019年オープンした、精神障害の方の就労支援も行う自然派カフェ。管理者の鈴木さんは様々な飲食店で修業したのち、障害者支援施設に転職。経験を積みながら、社会福祉士と精神保健福祉士の資格も取得したという経歴の持ち主。「精神疾患を持つ家族がいたことが福祉に興味を持ったきっかけ。精神疾患の方が働く場を支援できないかと、自分が学んだ経験の集大成としてスタートしました。できれば薬に頼るだけでなく、



オープンキッチンの明るい店内。日替わりの「キナリヤ定食」が人気。

「食」を通じて元気になれる場所 natural meal&caféキナリヤ

鈴木 正宏さん

食を通して体から元気になってもらいたいという考えから、可能な範囲で無農薬、減農薬の安全な食材を使い、手作りで多品目のお食事を提供。毎日のように来てくださる常連のお客さまも増え、地域に愛されるお店になってきていると感じています。メンバーさんの就労は、調理や接客、洗い物などその方に合わせたお仕事を、週2日1時間から。今後はヨガや登山、農業といった活動も積極的に取り入れていきたいと考えています」



natural meal&caféキナリヤ
 特定非営利法人Mito Projectが運営。生成(キナリ)のようにシンプルでできるだけ自然に近い形の「食」や「生活」「働き方」を提案。
 調布市仙川町1-25-4 シティハウス仙川1F
 03-6676-9627



調布市作業所等連絡会に所属する福祉事業所では、ボランティアや職員の募集を行っている施設もあります。詳細は各事業所にお問い合わせください(本誌裏表紙に一覧)

みんなにやさしいまち ちょうふ

「障害のある人が利用しやすい」場所は誰にとってもやさしい場所。障害がある人に配慮がある施設やお店をシリーズで紹介しします



「クリーンセンター」内の清掃の様子。週5日交代で行っています。



「ほっとハート」など福祉イベントのゴミ収集にも協力しています。



シャワールームは水滴が残らないように丁寧に拭き上げて。



「ありがとう」がテーマ、調布清掃70周年記念グッズと冊子。



株式会社 調布清掃
 調布市深大寺東町5-8-1
 042-485-1166

誰もが住みやすく、安全できれいな街づくりを

深大寺東町 調布清掃

創業70年を迎える「調布清掃」は、地域になくてはならない廃棄物収集、処理の会社です。創業以来の理念から地域貢献に積極的に取り組んでいて、調布市作業所等連絡会との連携もその一つ。経営企画室の望月麻子さんにお話を伺いました。
 「市内の粗大ごみの処理やリサイクルを行う『調布市のクリーンセンター』の清掃業務を連絡会さんに委託し、執務スペースや食堂などを作業所の皆さんに交代で清掃してもらっています。また、障害者雇用も「ちょうふだぞう」などを

通じて積極的に行っています。その方の特性に合わせた業務を担当してもらったり、よりわかりやすい指示を行うなどの工夫もしています。そのためなのか定着率が高く、中には30年以上働いている方も。また、街を巡回しての収集作業中などの際、高齢者や障害のある方のお困りごとや、体調の異変などを見つけて支援機関に連絡するなど「調布市見守りネットワーク」(通称みまもっと)にも協力しています。これからも、地域の方々のつながりを大切に、障害あるなしに関わらず誰もが住みやすく安全な街づくりに貢献していきたいと考えています」

Topics

連絡会ホームページリニューアル

作業所等連絡会ホームページの掲載情報量が増えバージョンアップ。「わくわく」も閲覧できるようになりました。



「わくわくショップ」営業再開
 調布市内の福祉作業所で作った商品を販売する調布市総合福祉センター1階「わくわくショップ」が、コロナ禍の不定期営業から通常営業を再開しています。(月・水・金10時30分～14時30分)
 「東京さつきホスピタル」に電車車両を展示
 「創造農園」などの母体である「福新樹会が、「東急8500系を設置して、気楽にいきたくなる楽しい精神科病院へ」をスローガンに実施したクラウドファンディングで5000万円を達成。車両は10月から一般公開しています。